

飯南

いいなん

議会報

- 02 可決された主な議案
- 03 新年のあいさつ
平成25年度 一般会計補正予算
議会全員協議会の議題
- 04 一般質問
- 09 採決の結果
決算審議報告
- 10 常任委員会報告
研修報告
議会活動報告
陳情
- 12 明日を拓く

第36号
平成26年1月20日



平成25年

12月定例会終わる

12月10日から12月20日までの11日間の日程で開きました。

平成25年12月定例会は消費税率が平成26年4月から8%に増税されることを受け、町有施設の利用料や使用料を改定する議案が提案された。また、町税以外の収入金に対し、督促手数料と延滞金も町税に沿って課す議案が提案された。

予算では、大注連縄創作館の位置が関係者間で話し合わせられ、道の駅とんぼらの南側土地に決まったことによる造成費など4400万円余を増額した。大注連縄が飯南町の産業のひとつとして発展し、この建物が観光拠点のひとつとなることを望むものである。

飯南高校存続のための様々な試みの成果が現れ、オーブンキャンパスに訪れる中学生が本年度は114人あり、定員の80人を超えている。

また、飯南町は近隣市町から通う生徒のためにスクールバスを運行しているが、来年から邑智線のスクールバスが定員を超えることが予想されるので、1500万円余の予算で中型バスを導入して対応する。



新年のご挨拶

飯南町議会議長 難波 俊司



新年あけましておめでとございませう。町民の皆様には、輝かしい新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

さて、昨年は町長並びに議会議員の選挙が行なわれ、山崎町長が再選、議会は10名の新たな議員で議会運営を行っております。

本年は役場新庁舎、大注連縄創作館の建設など、大きな事業が始まります。

また、国道54号活性化や米を取巻く環境の大きな変化など難問を抱えてのスタートです。

皆様のご指導、ご協力をいただきながら、議員一丸となり本町の発展と議会活性化のため一生懸命取り組んでまいります。

皆様のご健勝とご多幸をお祈りして年頭のご挨拶いたします。

【平成25年度 一般会計補正予算】

大注連縄創作館整備事業・長期債繰上償還など

2億4139万円増額

各会計		補正予算額	予算総額
一般会計		2億4139万円	77億245万円
特別会計	介護保険サービス事業	△440万円	2990万円
病院事業会計		△2857万円	12億2760万円

「可決された主な議案」

■認定

平成24年度飯南町各会計歳入歳出決算認定

■条例関係

消費税法の一部改正に伴う関係条例の整理に関する条例の制定など14件

■補正予算

平成25年度飯南町一般会計補正予算(第5号)など3件

■陳情

町道琴籠中線(通称戸田線)の幅員拡張を求める陳情など2件



議全会員協議会の議題

12月19日

- ① 飯南町新庁舎基本設計
- ② 飯南町頼原基幹支所
- ③ 雲南市・飯南町事務組合ケーブルテレビの平成26年度からの体制
- ④ 地方公営企業会計制度見直し
- ⑤ 木質バイオマス事業
- ⑥ 減反政策

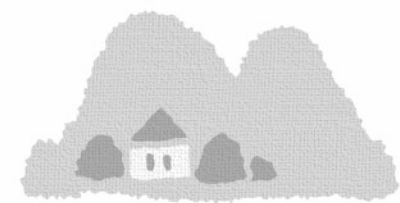


一般質問

12月定例会



永井 章 議員



Q 今後の財政運営は

① 交付税の合併優遇措置が平成26年度で終了する。
平成27年度からは段階的に削減され、平成32年度には交付税が4億円余減少すると見込まれている。この状況で推移すれば財政危機に落ちる恐れがあり、国や県に対し財政支援の要請をすべきでは。

② 今後予想される大型投資は、庁舎建設、米の乾燥調整施設、公共工事等があるが、実質公債費比率はどの程度上昇するのか。上昇したときの事業の抑制や見直し、行政改革等、財政健全化策は。

③ 平成26年度の予算編成方針と重点施策は。

A 地方交付税の制度改善を要望

町長 山崎 英樹

① 地方交付税の制度改善として、町村の実情を把握し、小規模な自治体でも自律的な財政運営が維持できる制度にすること。

また、中山間地域の自治体は行政区画が広く、人口密度が低い。行政効率が悪いため、国・県へ要望している。

② 庁舎建設、米の乾燥調整施設などの大型事業を実施すれば、事業費は流動的であるが、実質公債費比率などが1%強上昇し、今後は16%前後で推移する見込みである。

また、合併特例債や過疎債など、交付税措置の手厚い財源を活用しても、借金であることに変わりはなく、合併加算が終了しても負担が継続される。事業費の圧縮、経費の削減、行政改革等によって、財政の健全化に努める。

なお、公共工事は生活に密着しており、財政指標を注視しながら、できるだけ進める。

③ 平成26年度予算編成の基本方針は、飯南町総合振興計画・後期基本計画の推進である。重点施策は、「雇用を増やす」「子どもを増やす」「安心な暮らしを守る」「国道54号活性化対策」の4点を考えている。



Q 役場組織の機構改革は

山積する地域課題に対応していくため、平成25年8月の町政座談会において、地域振興課を設置し、赤来・頓原地域を総括する地域センターを設置するとあったが、機構改革の時期は。

A 地域振興課を設置

町長 山崎 英樹

「活力ある地域」「安心して住める地域」づくりを進めるために地域振興課を設置し、赤来・頓原の地域センターと連携し全町にわたる地域づくりを考える。

機構改革の時期は、本庁舎方式となる平成28年4月が目安であるが、できるだけ早く実施したい。

なお、課題解決のために集落支援員制度を設け、住みよい地域創造事業の取り組みが具体化している、谷・志々地区に先行して配置する。

一般質問

12月定例会



門 眞一郎 議員



田園風景

Q 遊休牧草地を畑作地に

農業経営者を目指すU・Iターン者は、研修を終えて、いざ就農となったとき、生活を支えるだけの農地の確保がままならない現状がある。

若い夫婦が子供を連れて就職すれば、子育てのために十分な所得を確保しなければならぬ。

畑作で必要な土地を確保するために、農業振興地域に1

Q 人・農地プラン全町で取り組む

人・農地プランは、集落や地域の話し合いで将来の担い手を決めていくことだが、担い手育成事業とセットになっている。

国は、平成26年度から農地中間管理機構を設置し、担い手へ農地集積を進めるとしている。

この2つの事業は密接に関連しており、地域が決めた担い手に対し、支援と農地を集

A エリア拡大を検討

町長 山崎 英樹

約し、経営規模拡大、効率化を図る狙いがあるが、本町では取り組んでいる集落は少ない。全町挙げて取り組む必要があるが対策は。

人・農地プランは担い手が少なくなっていく中で、本町農業の活性化に向けて積極的に推進しなくてはならない。

本町では説明会や研修会を行うとともに、要望のあった

54ヘクタールに上る草地、放牧地があるが、未利用のものを洗い出し、転用することを提案する。

A 検討していきたい

町長 山崎 英樹

本町では農業経営を目指すU・Iターン者を受け入れ、今までに2人が就農、1人が研修中である。

就農は、農地付き空き家住宅とセットで行っているが、

このような中で、大きな用地面積、水利や電気の確保などの面から考えているが、草地の利用という視点は検討に値する。



一般質問

12月定例会



小野 覚 議員

Q 今後の転作への考え方は

コメ(米)政策を大きく転換し、主食用から飼料用米などへの生産転換を農家に促す転作補助金を拡充するとしているが、それらを含めて本町の来年度の転作についての考えは。

A 加工用米、飼料用米への対応を検討

町長 山崎英樹

平成26年産配分は、飯南町では昨年に比べて18ヘクタール減少し、面積換算で686ヘクタールで米を作ることになる。平成26年産米の作付け方針は、本町の農業再生協議会で検討したい。

大豆40ヘクタール、ソバ30ヘクタールは確保し、ホールクロップサイレージの拡大と、加工用米および飼料用米への対応を検討する。

Q 農村への影響は

「日本型直接支払制度」を平成26年度に創設し、農地維持支払と資源向上支払の2種類の交付金で農地を守り、農村の環境保全を進めるとしているが、現行の農地・水保全管理交付金事業との関連を含み、この影響をどのように考えるか。

A スムーズに移行したい

町長 山崎英樹

現行の農地・水保全管理支払い交付金のうちの共同活動を、「農地維持支払」「資源向上支払」に分割するというところで、交付額は2つ合わせると単価は増額になるが、現在の取り組みが制限される可能性がある。

この新たな制度にスムーズに移行できるよう、関係機関に対して活動の円滑化、事務負担の軽減等を要望していく。

Q 子育て支援対策 具体的施策は

町長は平成25年1月の町長選において、3期目の町政を担うにあたり、「雇用を増やす」「子供を増やす」「安心な暮らしを守る」の3つの目標を掲げたが、子育て支援対策について、平成26年度の具体的施策は。

A プロジェクト チームを設置

町長 山崎英樹

役場の若手職員を中心に「プロジェクト飯南推進チーム」



を設置し、総合的な子育て支援対策、定住対策を推進するため議論している。

- 1 子供医療費の更なる軽減や対象年齢の拡大
- 2 各種検診や健康相談の拡充
- 3 保育サービスの充実と保育料の引き下げ
- 4 子育て支援センター、育児サークルや放課後児童クラブなど、子育て支援組織の拡充などが対象になる。

さらに子育て世代の声を取りまとめ、平成26年度からの子育て支援対策の組み立てや、予算措置に生かして、一歩前進したと思えるような施策を進める。



一般質問

12月定例会



内藤 眞一 議員

Q 頓原基幹支所設置 住民の声を聞け

A 結論は急がない

どのような方法で行ったのか

町長は平成25年9月定例会時に、頓原基幹支所の位置について「丁寧に説明をする」と回答したが、どのような方法で行ったのか。

説明会とアンケート

町長 山崎英樹

説明会は定例会終了後から関係自治区長と連絡をとり、10月21日から28日までの間、8会場で行い、129名の出席があった。当日は町の考え方を説明し、意見を伺い、アンケートをお願いした。

また、保育所・小・中学校保護者、老人クラブ、婦人会など団体のヒアリングや、頓原地区住みよい地域創造会議にも、説明している。

開催時期が急ではなかったのか

10月18日の自治区長会で案内文書等が配布されたが、10

月21日から説明会が始まっている。

案内文書を全戸に回覧することは困難であり、説明会を知らない住民もあったと思う。また、「本町の医療について考える住民との懇談会」と同日に設定した集落があったが、なぜ短期間に急いで開催したのか疑問で、農閑期にゆっくると意見交換する機会をつくるべきではなかったか。

日程調整を行ったが

町長 山崎英樹

日程調整については、対象者の都合のよい日時に設定することを基本と考える。

事前に担当者で自治区長の間で日程調整を行った上で開催したが、このような事柄が発生し、申しわけなく思う。このことは急いで結論を導こうとは思っていない。さらに検討を加え、引き続き意見交換を重ねていきたいと考えている。

日程に無理があった

総務課長 和久利 久

今回の説明会日程等に無理があったことをおわびする。各会場での意見やアンケート結果の報告を、住民説明す

る約束をしているので、今後日程調整を行い報告する。

志々地区の説明会は

頓原基幹支所は、単に頓原地区だけの支所ではなく、志々支所も含む地域センターの役割を担うもので、志々地区の意見も聞くべきだ。

過半数の賛成が必要

アンケートの中間報告では回答率が低い、住民の過半数の賛成が得られない限り、安易に建設することがないよう、また少数意見にも配慮すべきだ。

文書回覧で周知

町長 山崎英樹

10月18日、志々地区の区長自治会長に説明会を開催し、地域住民への説明などの進め方について相談した。

その結果この計画案について理解する。各集落での説明会までは必要なく、文書回覧で周知することになった。

検討を加える

アンケートや少数意見にも検討を加えながら整理し、次の説明意見交換を行っていく。



一般質問

12月定例会



長島 正一 議員

Q 米の政策転換 対応は

① ホールクroppサイレイジの取組と補償額はどうか。
 ② 飼料米は数量払いの上限値10・5万円/10アールと言われているが、到底無理だ。品種選定、団地化、水田の固定化などいろいろな問題があるが、どう考えるか。
 ③ 新規需要米、加工米の次年度取り組みはどうか。
 ④ 大豆・ソバの直接支払交付金が少なくなると一気に作付がなくなるといえるが、考えられるが、どう取り組むのか。



冬季たん水の水田

⑤ 日本型直接支払制度は集落全体を見たときには活動組織と農家との間に課題が多い。零細農家の離農を促し、地域コミュニティの崩壊の危険性を持っているが、どう考えるか。
 ⑥ 人・農地プランは10年間で農地の8割を集積し、コスト4割削減を目標。このプランを作成されてないと農地の集積などの国の補助金が受けられない。
 大きな集落単位でのプラン作成の例もあるが、どう対処していくのか。

A さらに検討、研究していく

町長 山崎 英樹

国民の主食を経済効率のみで議論。減反廃止の唐突感には否めない。

① ホールクroppサイレイジの本町での取り組みは約5ヘクタール。町全体に広めていくためには、生産コストなど価格面での調整が必要と思う。補償額は8万円/10アールで変わらないと聞いている。
 ② 集落でのまとまった面的な取り組みが必要だ。また、飼料用米を専用品種で取り組んだ場合には、水田を固定化する必要がある。課題も多く、今後さらに検討していく。
 ③ エリーゼへの米粉用米は平成25年産米の面積で約15ヘクタールの84トン。平成26年産米は操業が1年遅れたため、後日、示してもらおう予定だ。
 ④ 大豆が40ヘクタール、ソバが30ヘクタールの転作面積。これを確保し、大豆、ソバとも

今年度と変わらない交付金額にしたいと考えている。

大豆の品種選定や機械整備には、関係機関と一緒に取り組んでいきたい。

⑤ 日本型直接支払制度は活動組織へ交付、経営所得安定対策は農業者へそれぞれ支払われる。集落での話し合いなど行いながら、より収入が得られる耕作というのを、地域で研究していく必要があると思う。

「農業あつて農村がない」ということであつてはならない。地域がうまく機能し存続していくために、いろんな知恵を出しながら取り組む必要がある。
 ⑥ 範囲の拡大をするということも一つの選択肢と思う。検討したい。

このほかJA合併への対策とインターネット環境向上を求める質問がありました。

採決結果

平成24年度飯南町各会計歳入歳出決算を全会一致で認定

全17議案を全会一致で可決

(欠席議員 伊藤好晴)



平成24年度飯南町各会計歳入歳出決算について、次の意見を付して認定した。

審査意見

総括
 一般会計と特別会計の決算総額(病院事業を除く)は、対前年比で歳入が94・8%、歳出が94・0%となっている。一般会計では、歳出において対前年比5・4%減の72億6626万円余となっているが、普通建設事業、公債費等の減が主な要因である。

財政指標では、経常収支比率が87・5%と前年対比4.6%の減少となっている。早期健全化法に定める指標の内、実質公債費比率は17・0%、将来負担比率は70・6%といずれも早期健全化基準を下回っているが、今後、大規模事業等も予定されており、一層の財政健全化に努められたい。

住宅新築資金等貸付事業

当会計は、平成24年度をもつて廃止となり、貸付金3317万円余の未収金は、一般会計に引き継がれるため、早急に対策を検討されたい。

未収金

各種税をはじめ未収金総額は、8014万円余となっており各分野とも件数・金額が、年々増加傾向にあり、今後も回収には厳しさが予測される。こうした現状から、滞納整理体制を検討され徴収に努力されたい。

産業振興

定住対策に積極的に取り組まれU・イターン者の増加もあり、評価も高いものがある。その増加と共に問題点もあり、受け入れ後の支援体制を検討されたい。

緑の分権改革推進事業は、毎年多額の予算により調査研究がおこなわれているが、明確な目標が見えない。新エネルギービジョンにもとづく具体的な取り組みを示すべきである。

公共交通

町営バス運行は高齢化が進む中、重要性を増すものと推

測される。利用者の意見を尊重し交通体系の構築に努められたい。
 車両の修繕費が多額となっているが、更新時期について一定の基準を設けるなど定期的更新により、安全・安定運行に努められたい。

財産管理

公共用地等の買収後における未登記があり、速やかな整理が必要である。

訪問看護事業

介護保険サービ事業は、収支均衡が図られている。
 在宅介護のため訪問看護事業が重要性を増している。一層の充実に努められたい。

病院

病院事業は、3年間の黒字経営から650万円余の赤字経営となっている。
 医師、看護師等職員一丸となり、健全な病院経営に努められたい。

決算審査報告

決算審査特別委員会 委員長 長島 正一

教育経済常任委員会

委員長 熊谷 兼樹

平成25年度一般会計補正予算

戸別所得補償経営安定推進事業 810万円

人・農地プランを作成した地域で、農地集積に協力する所有者に対し、協力金を交付する事業で、対象集落について予算化するもの。

人・農地プランは重要な事業なので周知徹底を図り、地区支援員を配置し、支援する必要があると指摘した。

大注連縄創作館整備事業 4,455万円

建設場所の変更により土地購入、敷地造成、地下水路の変更等が必要になったため事業費を増額するもの。

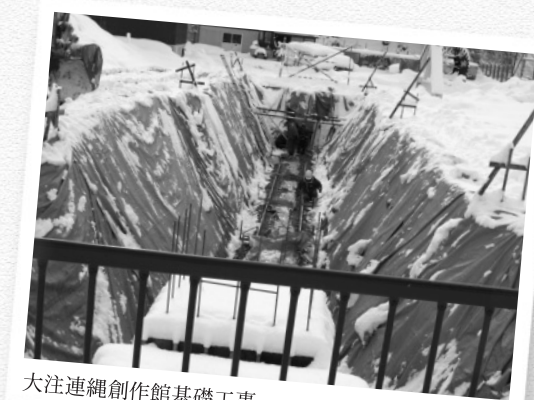
誘客施設としての効果が期待され、周辺施設との連携が図られるよう求めた。

繰越明許費

産業振興課、建設課共に多額の繰越明許費が計上されているが、平成26年4月1日より消費税率が8%になることをふまえ、進捗を図るよう求めた。

町立小中学校視察(平成25年11月28日)報告

学校施設の状況に重点を置き視察し、緊急を要する案件、大規模改修など多額の費用を要する案件に分類し、教育委員会の対応について回答を求めた。



大注連縄創作館基礎工事

総務厚生常任委員会

委員長 小野 寛

消費税法の一部改正に伴う関係条例の整理に関する条例

可決にあたり次の意見書を付した。

「今回の改正は一元単位の引き上げである。住民・利用者の利便を図るため、指定管理者が条例の範囲内で利用料等を決めることができるがあるが、町の方針を明確にし、住民に不公平感のないように対処されたい」。

平成25年度一般会計補正予算

飯南高校支援事業 1,513万円

飯南高校へバスで通学する生徒が増加していることと、現在運行しているバスの老朽化が著しいことから更新するもの。

「業務を委託している運行業者等の意見も参考に車種の選定にあたられたい」との意見書を付した。

平成25年度介護保険サービス事業特別会計補正予算

利用者及び訪問看護収入が急激に低下しそのまま低迷していることから、次の意見書を付した。「利用件数、訪問介護収入共に低迷傾向が続いている。原因を究明され一層の努力求める」。

平成25年度病院事業会計補正予算

入院患者の減少で入院収入が伸びず、大きな減額補正であり、次の意見書を付した。「入院収入が5,898万円の大規模な減額補正で極めて憂慮すべき状態である。医師、看護師、事務職員一丸となり、健全な病院運営に努められたい」。

視察研修

群馬県昭和村を視察

農林水産省

人・農地プランについて説明を受けた。

この事業は農業従事者が高齢化に伴い耕作不能になり、耕作放棄地の拡大を防ぐことを目的としている。

集落で話し合い、将来の担い手を決め、ここへ農地を集積することで農地を保全し、同時に経営規模の拡大を図り、収益性を確保する。

平成26年度から中間管理機構が設置され、さらに農地の集積を円滑に進める政策が採られる。

群馬県昭和村

この村の面積は飯南町の1/4、農地の総面積は2220ヘクタールと飯南町と大きな差はないが、税収は2倍を超える11億円あまりの豊かな村だ。

このため独自政策を採りやすく、子育て支援事業や集落助成制度が充実している。

この村は戦後、開拓によってできた村であるが、平成7年頃を境に引退する農家が増加し、農地の集積が進んでいる。多くはこんにゃくなどを生産する畑地で、平均耕作地は3ヘクタール、最大50ヘクタールの大型農家も存在し、売り上げ1億円を超える農家が7、8軒はあると聞いた。

飯南町の農業従事者の平均年齢は年々上昇しているが、今後引退される方は増加すると思われる。昭和村の様に円滑な経営移譲を行い、農地を守って行きたいと思った。



昭和村の直売所

議会活動報告 [10月~12月]

- 10月2日 議会広報編集委員会：編集作業
7日 議会広報編集委員会：紙面校正
10日 議会広報編集委員会：紙面校正
11日 島根県町村議会議長会全議員研修会(松江市)
15日 決算審査特別委員会：企画財政課、総務課
16日 決算審査特別委員会：産業振興課、住民課
23日 決算審査特別委員会：飯南病院、建設課
24日 決算審査特別委員会：教育委員会、保健福祉課
29日 雲南市・飯南町事務組合議会定例会
11月1日 島根中央子牛共進会(宍道)
5日 雲南地域議会議長連絡会研修会(島根県中山間地域研究センター)
6日 決算審査特別委員会：フロンティアあかぎ、飯南町商工会、とんぼら総合開発(株)、(有)赤来交通
8日 決算審査特別委員会：飯南町社会福祉協議会、(株)飯南町トータルサポート、JA雲南
11月15日 町有林現地視察
18日 決算審査特別委員会：現地調査
19日 決算審査特別委員会：まとめ
22日 教育経済常任委員会：学校訪問
25日~27日 視察研修(農林水産省・群馬県昭和村)
28日 教育経済常任委員会：閉会中の調査事件
12月3日 決算審査特別委員会：まとめ
6日 議会運営委員会：12月定例会の提出議案、日程外の協議
10日 12月定例会：本会議、町長行政報告、提出議案の説明、質疑
13日 本会議、一般質問
16日 委員会審査
17日 委員会審査
18日 委員会審査
19日 予算特別委員会・全員協議会
20日 12月定例会：本会議、討論、採決
24日 議会広報編集委員会：編集作業
25日 雲南広域連合連合議会定例会、雲南市・飯南町事務組合臨時会

町道琴麓中線(通称戸田線)の幅員拡張を求める陳情
[陳情者]飯南町野萱429
野萱自治区長 安部 浩 外23名
[審査委員会]教育経済常任委員会
[審査結果]採択

町道三洲線の改良及び町道内戸線の改修を要望する陳情
[陳情者]飯石郡飯南町上赤名445-6
上赤名自治区長 仁井康富 外61名
[審査委員会]教育経済常任委員会
[審査結果]採択

明日を拓く



お話を伺った山形さん

クラインガルテンで9年暮らす山形 隆彦(70歳)さん

ここに住んで感想は

空気、景色がすばらしい!!

初めてここに来たとき、鍬ひとつ持ったことが無かった。あるとき畑に水をまいていたら、この住人がそんな水やりの仕方なら、野菜を作れるようになるまで5年はかかると言われ、なにくそと一念発起し本を読んだり、教えてもらいに行ったりして勉強した。昨年は前年の芋づるから苗を作って「あんのう

いもを栽培したが、良い芋ができた。苗を近所に配って作ってもらったが評判が良かった。人間は野菜を食べなきゃいけない、ここに来て健康になった。はで干しのおいしい米もあるし、広島に居たときはパン食だったが、今は毎日ご飯を食べている。おかげで元気で長生きしている。

11月の過ごし方は

ウォシュレットが完備されているのがうれしかった。きつと皆喜んでいると思う。

それと規律があまり厳しくないこと、ここは居心地がいい、行事が多いところは拘束されることが多いが、負担感のない程度のかかわり合いがあつて気楽に過ごせる。

友達が来たら連れて行きたいところは

うぐいす茶屋にそばを食べに行く、近くの温泉めぐりも定番だ。

地域に望むこと

買い物が不便なのでスーパーがほしい。買い物には大田の

ジャスコに行っているが雪が降ると出たくない。

この町のいいところを色々なメディアを使って全国に発信すべきだ。若い人がやってきて興味を持つものが不足していると感じるので、探して見てはどうか。

広大な土地があるんだから、公園墓地を作って桜やもみじを植栽し、安価に樹木葬などをやったらどうか。この町にはお寺さんも沢山あるし。



家庭菜園の楽しめるクラインガルテン

今月の表紙写真



「はい、お待ちどうぞ」と笑顔でホクホクの焼き芋を手渡しする場面に遭遇してパチリと一枚。昨年10月末に三次市にオープンした飯南町アンテナショップ「iまるシェ」の店頭では、こうした対面販売が土・日・祝日を中心に行われています。アンテナショップの役割は「伝える」ということ。飯南地域の情報・文化をはじめ、製品の味をお客様に対面で伝えていきます。焼き芋のようにホットな味を伝えていきましょう。

編集後記

新年あけましておめでとうござい
ます。

昨年12月議会では5人の議員が財政、農業政策、基幹支所などについて一般質問しました。

とくに、農業に関する問題では、農地集積や就農支援する人・農地プラン、米の生産調整を5年後の廃止、日本型直接支払制度の創設など、活発な論戦がありました。

本町の基幹産業である農業に、これからどう対応していくか、課題が山積しています。

この一年町民の皆様にとりましてよりよい年でありますようお願い申し上げます。

議会広報編集委員会 永井 章